

2025年度 学校法人修道学園 事業計画

<協創中高校部>

主要項目	行動計画(事業計画期間)	行動計画(単年度)	所管部局	実施月	評価指標
I 協創教育の推進					
1.「探究力」4つの力 (課題解決する力・協創する力・社会参画する力・自己実現する力)の育成	4つの力の育成を評価するための「協創ルーブリック」により生徒の成長を評価するとともに、各教科においても「協創ルーブリック」を踏まえた「教科別ルーブリック」により評価を行う。	①学校の進むべき方向を示した「学校グランドデザイン」を策定するとともに、その内容を反映した各教育プログラム(ディテール(詳細)プラン)を作成する。	管理職 全教員	通年	・グランドデザインの策定 ・各部署、学年、教科におけるディテールプランの作成
		②ルーブリックを活用して「思考力・判断力・表現力」や「主体的に学習に取り組む態度」などを評価する方法を授業改善研修を通して修得する。	教務部 全教員	通年	教科ルーブリック改訂版の作成(前期)及び教科においてルーブリックに基づく授業実施と評価検討会の実施
		③教育目標達成のための「探究力(4つの力)の育成」を評価する「協創ルーブリック」の具体的な活用法について再考し、評価を試みる。	教務部	通年	・学年主任会で学年行事におけるルーブリック評価指標を立案し、学年行事でのルーブリック評価の実施
2. GCP(グローバル・コンピテンス・プログラム)の推進	本校の教育目標を達成するための教科横断型の特色ある教育活動としてGCPに取り組む。	GCPにおける4年間の取り組みの成果を総括し、実施学年を含めた見直しを行う。	協創教育部	通年	・見直し案の提示 ・生徒アンケートNo.16「GCPの満足度」の肯定的割合 65%以上
3.国際理解教育の推進	海外提携校・姉妹校との交流や海外研修旅行などを通じて、英語力、異文化理解力、コミュニケーション力、創造力、日本人としてのアイデンティティ(グローバル基礎力)を育成する。	①中学台湾研修旅行や高校海外研修旅行を通して、グローバル基礎力を育成するとともにニュージーランド留学や海外協定校との相互交流の魅力を生徒・保護者に周知し、参加者のさらなる増加を目指す。	協創教育部	通年	・留学等への参加者の増加(前年度比120%) ・生徒アンケートNo.17「国際交流事業の満足度」の肯定的割合 80%以上
		②広島修道大学留学生による語学講座など、広島修道大学との連携による各種国際交流活動を推進する。	協創教育部	通年	・各種国際交流活動への参加者の増加(前年度比120%) ・生徒アンケートNo.17「国際交流事業の満足度」の肯定的割合 80%以上
4.ICTを活用した創造的な教育の推進	ICTを活用した教育を着実に進めることによって生徒の理解度を深めるとともに、ICTの活用等により教職員の生徒にかかわる時間を確保する。	①生成AIやデータサイエンスなどのデジタル領域の外部専門講師による講演会やワークショップを通じた授業づくりを教員間で共有し、協働的な学びのための研究と情報の提供を行う。	教務部	通年	・教員アンケートNo.18「ICTを活用した授業」を実践している割合 75%以上
II 学力の向上					
1.「主体的、対話的で深い学び」の実践による学力の向上	「分かりやすい授業」から「生徒が考え学ぶ考えやすい授業」を意識した生徒の主体性を育む授業へと改善を図る。	①外部の知見を得て整理した様々な教育データを活用した「授業改善ビジョン」の策定に取り組む。	教務部 教科主任会	通年	・各教科における授業改善ビジョンの策定
		②「自ら考え学ぶ、考えやすい授業」の共通理解を促進するとともに、様々なスタイルについての具体化を図る。	教務部 教科主任会	通年	・各教科において策定した授業改善ビジョンに基づく授業改善具体案の提示
		③LRC(ラーニング・リソース・センター)を各教科の中に位置づけて積極的に活用するとともに、生徒の進路選択の観点から必要な資料を整備する。	教務部 学年会	通年	・各教科におけるLRCの活用頻度 ・進路指導資料の整備状況
2.探究力を育成する教育の実践	教科主任を中心として、主体的・対話的で深い学びを促す授業づくりを組織的に進める。	①年間研修計画に基づいた授業観察及び評価を通して、「主体的、対話的で深い学び」に向けた授業改善に取り組む。	教務部 教科主任会	通年	・生徒アンケートNo.9～14「授業の満足度」の肯定的割合 65%以上
		②手取り足取りからの脱却を念頭に置いた指導を通じ、生徒主体の授業と行事を確立する。	教科主任会	通年	・授業方法及び行事の見直し案の提示
		③地域連携担当教員を任命し、町内会、社会福祉協議会、地元企業、さらには他校との交流を発展させ、交流を通して、より実践的な探究力の育成を試みる。	総務部	通年	・地域連携担当教員の任命 ・地域との交流回数

主要項目	行動計画(事業計画期間)	行動計画(単年度)	所管部局	実施月	評価指標
Ⅲ進路支援の強化					
1.生徒の進路希望を実現するデータに基づいた組織的な進路指導の充実	各種模試結果を分析し、生徒の学力状況を客観的に把握し、進路支援部、各学年、教科が連携して具体的な学力向上対策を実施する。 個人面談の充実を図り、学習支援体制を確立する。	①各種模試結果などを組織的に管理、共有、活用するため、「教育データ班」を設置し、生徒の進路希望実現を図る。 「進路シラバス」に基づいた取り組みを充実させていく。	進路支援部	通年	・「教育データ班」の設置 ・教育データ班の分析結果に基づく進路検討会の実施
		②広島修道大学附属校推薦、総合型選抜、学校推薦型選抜などの対策案を企画・立案し、実施する。	進路支援部	通年	・広島修道大学入学者数の増加(100人) ・総合型選抜、学校推薦型選抜入試による合格者数の増加(前年度比120%)
		③各教科より「協創スマート予備校」との連携担当教員(スマートティーチャー)を選出し、学校の授業とリンクした講義を検討するとともに、模試スケジュールや教育データとの共存を図る。	教科主任会 進路支援部	通年	・各教科からのスマートティーチャーの選出 ・模試スケジュール、教育データを活用した講義計画の策定
		④2025年度からの修大・進学コースの改編の趣旨を内外に正確に発信する。	教務部 進路支援部	通年	・学内での周知活動状況 ・中学校、塾等への周知活動状況
Ⅳ自立(自律)心の育成					
1.規範意識や倫理観の育成	挨拶の励行や時間厳守など基本的な生活習慣の確立に向けて、登下校時、SHR、授業、部活動など様々な場面を捉え、教職員が一丸となって指導を徹底する。	①「8つのマインドセット」と「み・そ・あ・じ」(身だしなみ・掃除・挨拶・時間)の周知、徹底を図る。	生徒支援部	通年	・風紀、美化委員会による推進活動
		②今年度は、遅刻数の減少とトイレの使い方と美化に焦点を当て、具体的な改善策を打ち出して取り組む。	生徒支援部	通年	・遅刻者数の減少(前年比25%減) ・美化委員会による清掃点検の実施
2.学校生活の活性化	生徒自治会の主体的な企画・運営により各種事業が行われ、その行事に生徒が意欲的に参加できる環境を整える。	①文化祭(ステージ発表)と協創コンテストのあり方等、生徒にとってより良い学校行事の構築を図る。	生徒支援部	通年	・実施内容の見直し案提示
		②生徒支援部の自治会担当教員を明確にし、生徒の主体性をより高める。	生徒支援部	通年	・生徒自治会活動年間計画の策定
		③生徒自治会から全校生徒へのメッセージを発信する機会を増やし、意見交流の場を設定して自治会活動の活性化を図る。	生徒支援部	通年	・生徒自治会活動の実施状況
		④昨年度の校則の見直しの成果と課題を整理し、生徒自治会とともに、あるべき校則について見直しを行う。	生徒支援部	通年	・見直し案の策定
		⑤限られた教育環境の中で、充実したクラブ活動を行うために必要な条件を洗い出し、実施可能なものから実行する。	生徒支援部	通年	・改善の実施状況
Ⅴ教育力の向上					
1.教職員研修の充実	学校としての授業改善ビジョンを策定し、体系的・定期的な研修制度に基づく研修を計画するとともに、研修時間を確実に確保する。	①初任者のための「メンター制度」を実施し、先輩教員から授業や校務などについて指導や助言を行う。	教務部	通年	・初任者へのアンケートによる満足度80%
		②本校の強み、弱みを踏まえて計画した年間研修計画に基づき各種研修計画を実施する。	教務部	通年	・年間計画に基づく研修の実施状況
2.公開研究授業の実施	計画的な公開研究授業を開催し、教員の授業力向上を図る。	授業観察・評価による授業改善の成果発表の場として公開研究授業を実施する。	教務部	11月	・公開研準備検討会の実施 ・公開研後の事後検討会の実施

主要項目	行動計画(事業計画期間)	行動計画(単年度)	所管部局	実施月	評価指標
3.授業観察・評価の充実	各プログラムのディテール(詳細)プランを提示し、学校内外の評価者による日々の授業を評価する仕組みを構築し、授業改善にかかるPDCAを回す。	①年間計画に基づく授業観察・評価を教育アドバイザーの協力を得ながら実施する。	教務部	通年	・授業観察年間計画の策定 ・観察結果のまとめを作成
		②授業力向上のため、生徒による授業評価アンケートを実施する。	教務部	6月・11月	・生徒授業評価アンケートの実施 ・評価アンケート結果の分析と評価報告書の作成
4.学校ルーブリック・教科ルーブリックを活用した評価の実践	ルーブリックによる授業評価を行う。	①ルーブリックを活用して「思考力・判断力・表現力」や「主体的に学習に取り組む態度」などを評価する手法を授業改善研修を通して修得する。	教務部	通年	教科ルーブリック改訂版の作成(前期)及び教科においてルーブリックに基づく授業実施と評価検討会の実施
		②授業評価のための教科別ルーブリックをブラッシュアップし、これに基づいて評価を試みる。	教務部	通年	
VI生徒募集の充実					
1.戦略的広報活動の実施	本校における「ヒト・モノ・カネ」の資源を正確に把握するとともに、様々なテクノロジーを駆使した広報活動をはじめ、効率的・戦略的な広報活動を行う。	①教職員全員が「広報マン」になれるよう、本校の現在地について把握できる情報を整理し共有する。	企画広報部	5月～11月	・オープンスクール等、各行事の広報計画の策定
		②オープンスクール、地域別相談会、夜の説明会、随時見学等を軸として広報活動を実施する。	企画広報部	5月～11月	・各種行事の年間計画を策定 ・オープンスクール参加者数の定員充足
		③ウェブ(ホーム)ページ及びSNSでのタイムリーな発信をこれまで以上に充実させる。	企画広報部	通年	保護者アンケートNo.30「本校のホームページはよく更新されている。」割合82%以上
		④小・中学校や塾訪問の事前準備を入念にすると共に、訪問先を厳選するなど、戦略的に実施する。	企画広報部	通年	・小学校、中学校及び塾へのアンケート「本校の広報活動」への肯定的割合80%以上
VII学校組織力の強化					
1.組織体制の充実	中期事業計画を踏まえた年度事業計画を毎年策定し、部長・主任を中心とした各部、学年団において、主体的に様々な教育活動・改善を実施する。	①新たに策定した中期事業計画に基づいた年度計画が作成される組織体制を構築する。	管理職	通年	・教員アンケートNo.34「学校経営方針に対する満足度」の肯定的割合 64%以上
		②組織内のコミュニケーションを活性化するため、職員室内の座席配置や学年団の分掌の組み方の工夫、またキャリアアップ面談以外での面談実施に取り組む。	管理職、教務部	通年	・キャリアアップ外の面談計画に基づく実施状況 ・面談に基づくまとめの作成
2.人事評価の実施	適正な評価に基づき、教師力を高め、組織として教育力を最大化する本校独自の人事評価制度を実施するとともに、評価を給与に反映する。	協創シートに基づくキャリア・アップ面談を通して個々の取り組みを支援するとともに、その成果を給与に反映する仕組み作りに着手する。	管理職	通年	・人事評価システムの見直し案提示
VIII事務室の機能強化					
経営面の機能強化	事務室が校長の学校経営を支援する組織となっている。	学校経営に関する課題を共有し、改善案について協議する機会を設ける。	事務室	通年	事務長、総務企画課長及び財務課長との協議会実施(週1回)
財務面の機能強化	学校経営にかかわる中期計画に基づき、適切な財務運営及び施設・設備の管理が行われている。	施設・設備中長期保全計画に基づき、計画的な施設・設備の維持管理を実施する。	事務室	通年	中長期保全計画に基づく整備状況